

ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術における回腸導管造設時の完全後腹膜化が 傍ストーマヘルニア発生に与える影響に関する後ろ向き観察研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

本研究は、膀胱全摘術を受けた患者さんの手術方法の違いが、術後の合併症にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的としています。特に、ロボット支援手術における回腸導管造設術において、導管を腹膜の外側に配置する「完全後腹膜化」という手技に着目しています。回腸導管造設後には、ストーマ周囲にヘルニア（傍ストーマヘルニア）が生じることがあり、装具の装着不良や生活の質の低下につながる場合があります。本研究では診療記録を用いて、この手技がヘルニアの発生に与える影響を後ろ向きに検討します。なお、本研究は既存の診療情報を用いて行い、個人が特定されることはありません。

研究の対象となる方

2023年1月～2026年5月の期間において、当院でロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術および回腸導管造設術の施行を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、手術時間、出血量、術後経過

使用開始予定日：2026年5月29日

研究予定期間

2026年5月29日～2026年11月

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 泌尿器科 三上 洋

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 泌尿器科 三上 洋

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)